

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 新得ふれあい館	評価実施年月日	平成19年10月
評価実施構成員氏名	伊藤 聡 会田 恵美	越後 ゆかり 杉谷 法子	村上 純子 古川 真理 山形 瑞穂 高橋 トヨ子
記録者氏名	伊藤 聡	記録年月日	平成19年10月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ケア理念をホームの入り口に掲示し毎日目に入るようになっている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	尊厳を守るという意識をもって、一つ一つの業務にあたっている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮し続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念の浸透させる取り組みは出来ていない。家族さんや町内の方に、お便りを作成しホームを知って頂く取り組みは行っている。		今後おたより等を活用して、理念が浸透される様に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	会話を交わすことはよくある。行き来が出来るほどではない。		立ち寄りやすい雰囲気作りを心がけていきたい。おたよりを活用してアピールしたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議を開催し、情報交換をしたりホームを見ていただいている。		より 町内会に溶け込める様、交流したい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	私たちに何が出来るのか、検討中。		私たちが地域の為に出来ることを話し合い、取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回指摘のあった点を検討し、可能な改善を行っている(ホーム便りの作成等)		すべての改善とまではいっていないが、スタッフ一丸となって取り組みを継続していきたい
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の開催。取り組みの報告や、ホームのアピールの場として活かしている。一緒に昼食を摂って頂き、現場をご覧頂いている。		地域の方との繋がりがより強くなる様、いい会議にしたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町や社協主催のイベントや教室に参加し、意見交換をおこなっている。		質を高める認知症サポーターの研修等の案内など、ホームに必要な情報をいただいている。今年は機会を逃してしまったので、次回は是非参加したい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や青年貢献制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度理解は不十分。現状は、活用されている方のお話を聞かせていただく程度にとどまっている。		包括支援センターで教えて頂けるので今後制度への理解を深めていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ全員、虐待はあってはならないという意識は強い。関連法については知識が乏しいが、常識的な理解はある。		関連法については理解を深めたい。全体の勉強会や、研修等あれば参加していきたい。防止委員会を立ち上げる予定。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は必ず読んで説明を行う。時間をかけて、納得頂いた上で契約させて頂いている。		継続して丁寧な説明を心がけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見、不満については家族さんにお便りや面会時に報告する。スタッフと話し合いをし解消や改善、説明をおこなっている。		聞き逃すことなく、納得の頂ける取り組みをしたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族などに定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月お便りで個別の生活の様子や近況報告をおこない、金銭については明細を送り確認をして頂いている。		家族さんに安心して頂けるよう、報告していきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見、不満、苦情等があるときは、面会やお電話でうけている。それらは、申し送りをしたり、会議で改善等の話し合いをしている。その結果や経過についてはご家族に説明させて頂いている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホームの会議や普段の何気ない会話から生まれた提案は、運営者で行う会議等で伝え、検討をしてもらっている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居さんの状況、勤務状況に応じスタッフと相談した上で勤務の調整を行っている		状況に応じ、臨機応変に対応していきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はあまり無いので、利用者さんへの影響は少ないと思われる。		チームワークが大切なので、現在のスタイルで続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修は、参加するスタッフの勤務調整おこない、スタッフも意欲的に参加している。		研修の成果を、現場にどんどん反映させていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	十勝グループホーム協議会に参加し、地域のホームの方々と交流を始めている。芽室、清水、新得で更にグループをつくり、話し合いの場が設けられている。今後は更に活動が活発になると思われる。		勉強会をはじめ、ホームで抱える問題を相談し合える関係になるよう、積極的に参加し努力したい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会等を計画して行っているが、それでストレスの軽減になっているという判断は難しい。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	意欲のある人には、責任のある仕事等個々に応じた業務をしてもらっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	現状に困って入居するケースが多い。それでも、計画作成担当者のアドバイスの下ご本人の求めるものを受け止めるため、話し合ったり試みたりしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時は勿論、遠方の方は電話で様々な相談を受けている。		入居前の相談は時間をかけて行い、不安の少ない対応を心がけたい。より良い信頼関係が保たれるよう、誠実に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ほとんどのケースは、当ホームをよく知る病院のケースワーカーさんや町の相談員さんと相談されてから来られる。ご本人や家族さんのお話を聞いた上で、支援している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族さんが切羽つまった状況で、即入居というケースがあった。		しっかりとした準備は当然必要ですが、ご本人や家族さんが困っているときは、臨機応変に対応したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さんにも日常の中に活躍の場があり、助け合う場面がある。		全員がそうなる様 取組みたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事にお誘いし普段の様子を見ていただいたり、ケアプランには家族さんの必要性をお伝えしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームで生活する中で、スタッフはご本人の思いや悩みに触れている。その様子を家族さんにお伝えすることで、面会や通院、外泊や外食等につながりご本人の気持ちの安定や関係作りの支援になっている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係が維持される様、連絡先の確認を行い手紙や電話、面会や外出の為のお手伝いを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握している。関係が悪くならない様に見守ったり、誤解を解くサポートなどを行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりをする必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談を受けることあり。外でお会いしても、気軽にお話ができる関係が続いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分でしっかり意思表示する方が多い。ただ、意向を尊重しすぎると何もしないで寝てばかりになってしまう方もいるので、そこは働きかけを行う必要があると考える。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。	入居前は勿論、入居してからもご本人の話や家族さんの話を聞いて、日々過去の暮らし振りの理解に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の状況はケース記録に残し、皆で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮し続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な整理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員のアドバイス受け、ご本人に現在必要となる計画を作成している。よく来て頂いている家族さんからは意見や要望もあり、それらが反映出来るようチームで話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な管理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスで、皆さんの様子について話し合いを行っている。必要に応じて見直しが行なわれるようになっている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録をとっている。記録しやすく、また一目でわかる様にとスタッフの考えを盛り込んだ書式を使用している。情報は共有され、実際のケアに生かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族さんが近くに居ない、事情があってすぐに来られない家族さんも居られるので、必要に応じ代行するなどの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮し続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向に応じ、町にあるジムを活用し体力維持や転倒防止のための運動を行っている。インストラクターさんに個別のメニューをつくって頂き、実施している。他には警察に会社のメールアドレスをお知らせし、高齢者の交通事故があったとき情報提供されるようになっている。		ご本人の意向にそえる様、出来る限りお手伝いしたい。最近ニーズが高まり週1回が2回に増えている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のケアマネジャーさんや有識者と話し、必要に応じ認知症防止のレクに参加させて頂いている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要性に応じ、地域包括支援センターに相談等を行っている。その他に必ず2ヶ月に1度はセンター長とお話の場がある。		今後も継続されるように、相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師さんは利用者さんのことをよく知っており、スタッフも話しやすいので相談もしやすい。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>相談出来る専門医はいるものの、多忙な方なのでなかなか緊密とはいかない。</p>		<p>医師との相談は難しいが、ケースワーカーさんや保健師さんもいいご意見を下さっている。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所に看護職は居ません。それでも、かかりつけの病院が近くにあったり、相談出来る保健師さんがいる。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>本人の意向や、環境の変化も考慮し入院になることは少ない。ホームに戻りたいとの訴えにこたえている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化したときは自然と話になるも、早い段階で終末期の話にはなりにくいのが現状。</p>		<p>話し合う機会をもうけていきたい。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>今後の変化に対する検討や準備は不十分と考えているが、現在往診に来てくださっている医師は、終末期をホームで迎える人がいれば協力や対応が可能であると言ってくさっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住替えによるダメージを防ぐことに努 めている。	私物を可能な限り持ち込むことで、環境に溶け込みやすいことを説明してい る。		家族さんとは連絡を取り合ったり、移り住む場所へ見学に行っている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取り扱いをしていない。	記録には個人名をいれていない。普段の言葉は関わりの中で、お互いに心地よく自然なものと考えている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いやりや希望を表せるように働 きかけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援している。	日々の関わりの中で、ご本人から思いが言い出しやすいよう特別な事がなくともおしゃべりやコミュニケーションをしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している。	毎日は難しいが、希望にそってプランを立ててご本人の求めているジムや買 い物への支援をしている。		日々スタッフは関わりの中で知りえた希望を聞き流すことなく、情報を 共有し可能性や出来ることを話し合っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む店 にいけるように努めている。	理容室や美容室は、ご本人の馴染みのところに行っている。お化粧の好きな 人には、お出掛けの際声かけをしている。		芸術高校の生徒さんを招き、希望された利用者さんのメイクやネイル アートをして頂いたこともある。大変好評だったので、今後も継続される よう働きかけていきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片づけをしている。	調理や盛り付け、配膳やお茶入れ、片付けに至るまでいつも数人の利用者さ んで行っている。		男性利用者さんであっても出来そうなお仕事があれば声をかけてい る、お米ときはなかなかの腕前で感心させられる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	今現在、お酒とタバコは求める人がいない。飲み物やおやつはいくつかの種類を置いて対応している。		好みのオヤツ(ケーキ、ソフトクリーム、ピザ等)ときどき出掛け、食べに行ったりしている。今後も続けたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ち良く排泄できるよう支援している。	排泄の失敗を減らすべく、声かけを行っている。いつトイレに行ったかわかる様に時間のチェックをしている。		現在の支援によって、少しでもトレーニングパンツ、パットの使用を減らしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日の希望はなかなか難しいが、時間やタイミングにはこたえている。また、入浴が好きでない方が居るので急に勤めるのでは無く、前日や午前中の関わりの中で、アプローチしている。		温泉にも行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ち良く休息したり眠れるよう支援している。	問題行動がない限り、一人ひとりの時間に合わせている。		23時頃に休まれたかと思えば、3時には起きられてテレビを観て過ごされる方がいます。部屋の外への音量には注意を払いますが、あとは昼夜逆転もなく、ご本人の習慣になっているので、よほどの事が無い限りは見守っています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事に興味のある人には家事、外仕事が好きな人や花が好きな人には花壇の手入れや収穫、気晴らしにはお買い物等いろいろ考えている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	前回の評価をうけて通院時や買い物するとき等に能力に応じて、支払いをして頂いている。		うまくいかないことも多いが、社会で生活する中での楽しみでもあるので、継続したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	表の花壇を眺めたり、手入れをする。また、買い物や散歩を勧めるなどいろんな選択肢を提供している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族さんから面会になかなか来られない人のところへ、訪問するための手助けをしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば、番号をこちらで入力することで会話が出来、手紙は発送先の住所や切手を確認して無事に郵送される様、支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来て頂けるようにお話ししたり、お便りでもおすすめしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はあってはならないこととスタッフ皆が認識している。また、拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の防犯上の施錠以外は鍵は使用していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ふらっと外へ出てしまう可能性のある利用者さんは、毎朝服装のチェックをし、スタッフ全員が把握出来るように記録している。所在の確認は、それとなく部屋を訪室し様子を伺っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	能力に応じ、扱っていただける様取り扱いには注意している。現在の管理体制で危険性のある利用者さんはいない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居前より考えられるリスクをスタッフで話し合い、回避するための対策を検討している。また、状況の変化があれば、その都度話し合い検討している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	新得消防署で救命講習をうけており、スタッフ全員がAEDの使用も出来るようになっている。ヒヤリハット報告を行い問題点はうやむやにせず、記録として残し反省と検証を行っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の防災時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	対策は出来ているとはいえない。ただ、研修等では必要性があがっている。地域にはお便り等を回しているの、今後協力が得られるよう働きかけていきたい。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	機能の低下が見られた場合、口頭やプランで家族さんにお伝えし、相談している。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝一人一人のVTをとっている。記録が蓄積されているので、変化にも気が付きやすい。異常がみられたときには、通院をしている。		
74 服薬確認 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者さん全員が薬を服用しているので、日々気をつけている。記録を残しチェックしている。変化があれば家族さんに連絡するよう努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の摂取量が少ない人はチェックを行い、必要に応じ声かけや介助を行っている。ご本人の飲みやすい飲み物を勧めたりしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きが習慣にならない方には、声かけや準備を行っている。義歯の方は寝る前にお預かりし、洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事は記録をとって、水分は必要に応じて記録し声かけ等を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年行っている。マニュアルは簡易なものなので、十分とは言えない。		しっかりした、マニュアルを用意しそれぞれの対策を勉強したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所は使用後必ず整理整頓がなされている。、食材についても、一日置きに新しいものが配達されているので、鮮度の悪いものは処分されている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関周りの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>外から玄関が見えるようになっている。夜間や早朝を除き、出入りに制限は設けていないので、インターホンを押さなくても入れる気軽さが皆さんに伝わっている。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに、壁の絵を張り替えたり、場所がわかるよう表示している。また、リビングや食卓は外の様子が良く見えて、季節も感じやすい。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ひとりの時間を過ごしたい方は自室、おしゃべりをしたい方はリビング、また食卓や、共用の和室等思い思いにすごされている。少人数でも、気の合う方、合わない方がいらしゃるので必要に応じて声かけもしている。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>出来る限り馴染みの私物を持ち込んで頂き、落ち着ける空間作りを提案している。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>その場に居るスタッフが気を配り、窓を開けたり、暖房をいれる等対応している。特に暖房は必要以上に強くしたり、暑くても気がつかない方がいるので気を配っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を生かした安全な環境作り</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>身体能力に応じ、リビングや食卓での座る位置を考慮し安全に生活が送れるよう配慮している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>何でもかんでもアドバイスするのではなく、ご自分で考えていただく間をおいている。失敗があれば、励ましたり、よい方法を考える。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>居室の窓から花壇が見える。興味のある人は、外に出て花壇の手入れをしたり、収穫を楽しんでいる。</p>		

.サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	利用者の2 / 3くらい
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	たまにある
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	利用者の2 / 3くらい
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	利用者の2 / 3くらい
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	利用者の2 / 3くらい
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	家族の1 / 3くらい

. サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	たまに
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働けている	職員の1/3くらいが
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	利用者の1/3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	家族等の1/3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

個々の気持ちを理解すること努め、意欲の妨げにならない様、スタッフはさり気ない見守りや声かけを心がけています。